

グローバルCOEプログラム「コンフリクトの人文国際研究教育拠点」
「コンフリクトの人文」セミナー 第5回

ダルフール紛争におけるヒューマンエコロジー： 地域的視点

講師：モハメド・サリ (Mohamed A. R. M. Salih) 教授
(Institute of Social Study / University of Leiden)

要旨：スーダンのダルフール紛争については、ジェノサイドや大量の難民・国内避難民などについて、すでに多くの議論がなされているが、社会や自然環境に対するインパクトについてはなおざりにされてきた。本講演は、こうしたインパクトに関する予備的な考察である。この紛争は、民族・政治的紛争の様相を呈するが、その根本原因をより深く理解するには、資源をめぐる新旧の紛争が現在どうからまりあっているかを見極めることが肝要である。環境的要因の考察は、国家の政策や、社会経済的不平等の問題と切り離すことはできない。

ダルフール地方において、人間と環境との関係は、「家」や「故郷」を意味し、民族名の接頭辞としても使われる *dar* という流動的な概念によってより複雑なものになっている。*dar* は地域の境界と民族のアイデンティティを示すものであるはずだが、現実には *dar* と民族は、一対一で対応していない。したがって、アラブ系集団が、いわゆるアフリカ人居住地帯に居住し、アフリカ系集団が、アラブ系の地域に居住していることになる。本講演では、ダルフール紛争の人間生態学を、国家の干渉と、国家、資源、国家人事の支配をめぐるエリート間の競争によって悪化した、資源をめぐる争いとして論じる。したがって、エリートたちにしかるべき地位とポストを配分するだけでは、この紛争は解決しないのである。

講師紹介：スーダン生まれの人類学者。マンチェスター大学でPhD (社会人類学) を取得。ウブサラ大学講師などを経て、現職。2007年にはコペンハーゲン大学より名誉博士号を授与される。政治・経済・生態人類学や紛争研究などの幅広い分野で活躍。著書に、*African Democracies and African Politics* (Pluto Press, 2001), *Environmental Politics and Liberation in Contemporary Africa* (Kluwer Academic Publishers, 1999)、編著書に、*Explaining Darfur* (Amsterdam University Press, 2007), *African Parliaments: Between Governance and Government* (Palgrave Macmillan, 2005) など多数。

日時 2007年12月6日(木) 17:00 ~ 19:00
会場 大阪大学大学院人間科学研究科(吹田キャンパス)
東館1階 106教室 (参加無料)

東館は、万博外周道路側の別館です。
大阪大学大学院 人間科学研究科
(吹田キャンパス) への交通アクセスは

<http://www.hus.osaka-u.ac.jp>

をご参照下さい。

問い合わせ先：

大阪大学大学院人間科学研究科
グローバルCOE事務局

E-mail gcoejimu@hus.osaka-u.ac.jp

電話 06-6879-8085

06-6877-5111 (代)

